



# 脚下照顧～心を揃えて～

校訓 「あかるく かしこく たくましく」

教育目標 「自分を大切にし、他者を大切にする児童の育成」

【2月号】

## 今年度最後の授業参観・学年部会 御協力に感謝！

### 1年生：生活科 もうすぐ2年生「できるようになったこと」を発表しました 文：石川主任

入学してからこの1年間でできるようになったことを、「国語・算数・生活・体育・音楽・図工・給食・当番」の8グループに分かれ発表しました。発表に向けて、何をどのように伝えるかを自分たちで考えて練習してきました。当日は1年の保護者だけではなく、新入生とその保護者も参観してくださいました。大勢が見ている中でも、皆大きな声で発表することができました。新入生と「貨物列車」をしてふれあう場面では、優しく誘ってあげたり、新入生を楽しませてあげたりと、お兄さんお姉さんらしさを表すことができました。



### 2年生：生活科「いのちの授業」。親子の絆を感じるよい機会になりました。 文：前島主任

2年生は、生活科の「いのちの授業」を行いました。ゲストティーチャーに、養護教諭の国久先生と助産師の丸茂さんに来ていただきました。命の始まりの大きさが、針の穴くらいだと知った子ども達は、とても驚いていました。また、お腹の中で、赤ちゃんが大きくなる様子を、クイズに答えながら楽しく学習しました。生まれてくる時に、お母さんの「ひみつの通り道（産道）」をどうやって通ってくるのか、実際に人形を使って詳しく教えてもらいました。赤ちゃんは狭い道を回りながら出てくること、お母さんも赤ちゃんも頑張っていることを知りました。



### 3年生：「太々神楽」学習会を行いました 文：松山主任

3年生は、山寺八幡神社太々神楽保存会のみなさんに来ていただいて、「太々神楽」の公演をしていただきました。たくさんある舞の中から、「鯛釣り」「種蒔き」「陣の舞」の三つをみせていただきました。神楽を初めて観るという人もたくさんいて、興味を持って集中して観ていました。太鼓や笛の音も素敵でしたし、舞も、ユーモラスなものあり、力強いものありでみんなひきつけられてみていました。最後には、舞で使うお面も見せていただきました。太々神楽の舞に興味がある人は、ぜひ参加してほしいということでした。



### 4年生：「10才を祝う会」を行いました 文：三枝主任

4年生は、「10年間のありがとうの気持ちを伝え、未来に向けてがんばろう」をテーマに、10才を祝う会を行いました。これまでお世話になった家族に対して感謝し、5年生や大人に向けてがんばっていく決意を表す会となることを目指し、実行委員、飾り係、看板係、歌係と役割分担をして準備を進めてきました。当日は、子どもたちが将来の夢や今頑張っていることなどを発表したり、今の自分を記した色紙を家族にプレゼントしたりしました。準備期間が1か月ほどでしたが、子どもたちは意欲的に取り組み、合唱や呼びかけを頑張りました。



**5年生：「SNSにひそむ危険性」についての学習会をしました。** 文：有野主任 写真は6年生を送る会

5年生は、「SNSにひそむ危険性」について、山梨県警察本部 生活安全部 少年・女性安全対策課少年対策官 加藤克人様にお話をいただきました。SNSの利用状況やSNSにまつわるトラブル、また、ゲーム障害やネット上のいじめなど、子ども達の身近な内容でした。ネットが身近にある子ども達は、話しに真剣に耳を傾けていました。また、家庭でのルールづくりの具体例なども出していただき、実のある時間となりました。家庭でのネット利用についてのルールづくりのきっかけになったのではないかと思います。



**6年生：スピーチ「今、私は、ほくほ」** 文：櫻田主任

小学校生活を終えようとしている6年生です。これまでの小学校生活や自分の将来について、一人ずつスピーチを行いました。自分の思いを伝えるために、文の構成を考えたり、資料を提示したりして工夫をしていました。大勢の前で発表することは緊張もしますが、真剣にスピーチをする姿は立派で、6年間の成長を感じることができました。また、発表する子ども達を保護者の方々も温かく見守っていました。スピーチを終え、残り少ない小学校生活を日々大切に過ごそうという思いが強くなった6年生です。最後の学年部会では、6年間の主な写真をスライドにして見ました。懐かしい場面がたくさん出てきて、思わず目頭が熱くなってきました。



**感謝!!6年生を送る会**

2月28日(木)、6年生に感謝の想いを伝える「6年生を送る会」が行われました。この会は、新児童会が初めて行う行事であり、新児童会役員と5年生が中心となり、1～5年生が協力して準備を進めてきました。当日は、在校生から学年毎、感謝の想いを歌や呼びかけで6年生に伝えました。6年生からは、ダンスや跳び箱、縄跳び、呼びかけなど、趣向を凝らした在校生へのメッセージとプレゼントのお返しがありました。そして最後は「絆」の全校合唱!和やかな中にも、思いがこもった温かな会となりました。この一年間小笠原小学校をリードし、新たな伝統を、しっかりと歴史に刻んでくれた6年生に、私からも感謝の言葉を送りたいと思います。

**「6年生ありがとう!そして、未来に向かって輝け!!」**



柳田の富士(校長雑感)  
私は、朝夕犬の散歩に出かけるのが日課になっていました。ある日、柳田と山の境目あたりを歩いていると、ふと気づいたこと響き渡る「ホー」「ホー」の声や、朝もやの中から聞こえる「コッコ」「コッコ」「コッコ」と連続する音です。これはもしかしてフクロウ? キツツキ? と気づいて初めて認識したのです。何とももったいない話ではないでしょうか。もっと前から気づいていたら、もっと豊かな感性で生活できていたかもしれません。  
哲学者カントは、「人間は人間(が行う教育)によって初めて人間になることができる」と言っています。人間は、自分自身に関わって育てられる多くの「人」から、多種多様な影響を受けて成長して行くことは間違いないです。親や兄弟姉妹などには養育され生きている術を学び、子ども同士の世界では人の中で生きる術を学ぶ、子ども同士の世界です。特に子ども同士での学びは、すべてが良い学びとは限りません。時には反面教師にも出会います。本校が昨年10月から取り組んでいる「あやめっ子タイム」は、周囲の友達とのおしゃべりを通して関わり合いをもつ時間です。コミュニケーションスキルを身に付けること、仲間との存在と良さを気づくことを目的としています。子ども達の生活では、人と関わる時間や頻度がどんどん減少して、人が関わることを避ける傾向が出てきています。私たちが、日々当たり前のように存在している仲間たちを、どんなに多くも知らない教育があつたか、そこには計り知れない身の回りの何気ない存在があります。だからこそ、豊かな心の育成の第一歩であると考えます。子どもたちには、周囲の仲間の存在を厭わぬ、関わり合うことを厭わぬ、そんな心を持って欲しいと思います。



